

令和5年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

日 時	令和5年5月26日（金） 9時30分～11時00分
場 所	南国市役所 4階 大会議室
出席者	南国市長 平山 耕三 南国市教育委員会 教育長 竹内 信人 職務代理 上岡 哲朗 教育委員 細川 善久 教育委員 楠瀬 公美 教育委員 浅野 聡子

1 開会

開会の挨拶（平山市長）

2 議事

〔議事1〕 令和4年度南国市教育委員会の事務事業自己点検・評価について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【上岡職務代理】

- 現在、南国市立小中学校の学校訪問で各校の学力向上や安心できる学校生活など、様々な取組を拝見している。そのなかで、不登校への対応について「不登校にならないように未然に防ぐ」と「不登校への対処」の2つの手立てがあり、「未然に防ぐ」ために、各学校で魅力的な取組が行われているが、「不登校への対処」については、登校しているもののいきなり教室には入れず、別の教室にいる子どもたちもいて、まずは学校に居場所を作ることが大切だと感じている。教職員の先生方や外部の方が対応してくださっているが、一步踏み出せないでいる状況を受け止める方が必要で、ここがうまくいかないと学校に来られなくなったり、ひきこもりなったりとその状態が続いてしまう。教職員の先生方は授業があり全ての対応は難しいが、子どもたちが一步踏み出すことへの支援が大切である。

⇒【竹内教育長】

- 南国市立4中学校には、教室に入れない子どもたちを受け入れる教室（適応指導教室）があり、支援員を配置している。ただし、支援員は学習指導ができないため、本来であれば教員が配置されるべきである。香長中学校では高知県から指定を受け、適応指導教室に加配教員が配置されている。加配教員の配置は令和4年度で終了予定であったが、1年間の延長措置で令和5年度まで、今年度で打ち切られることとなった。財政的にも人的にも困難な状況ではあるが、せっかく学校に出て来た子どもたちには対応できる人が必要なので、市として今後の対応を検討する必要がある。

⇒【平山市長】

- 教職員不足、正規の教員を配置することが難しい状況がある。子どもたちに必要な体制は整えた

令和5年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

い。教員経験者の雇用など、適任者を探していただきたい。

【楠瀬教育委員】

- 「南国市保幼小中連携学習向上推進プラン」について、幼児期は脳の発達が著しく、人間性の基礎を育む大切な時期である。「幼保小の架け橋プログラム」の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に定める小学校が求める基準に合うように保育を行う必要性を感じている。学校訪問の際に、授業中でも着席しない子どもがあり、着席することが「当たり前」であることが分かっていないようだった。小学校に進学する手前に「当たり前」を教えてあげないと、子どもたちは分からないまま小学生になってしまうので、このプログラムを大切にして欲しい。

⇒【竹内教育長】

- 全国的に保幼小中連携は大切であるとの認識が深まっており、国からも「これまでの連携から一歩進めて接続へ」と要請がきている。南国市においても、長年、保幼小中連携に取り組んでいるが、「連携から接続へ」を実現する新たな組織づくりを検討している。市内の保幼小中は公立のみならず、私立の経営上の理念が異なる施設もあり、統一的な組織をつくることは難しい状況があるが、体制整備から進める予定である。

⇒【平山市長】

- 国でも保幼小中連携を重要視しているとの補足をいただいた。これまでも保幼小中連携に取り組まれているが、さらに研究を進めて内容を充実させて欲しい。

【細川教育委員】

- 今年度の学校訪問で感じていることだが、各地で低学年が落ち着かない傾向にある中で、南国市は落ち着いて学習に向かっている学校が多い。それは、先生方の子どもに寄り添う姿勢が大きく、これまでアクションプランに取り組んできた成果であり、若い先生方にも受け継がれていると嬉しく思った。
- 気になった点は、支援を要する子どもが増え、特別支援学級数が増えている点である。さらに特別支援学級の前段の子どもたちも各学級に数名いて、一人ひとりに寄り添う先生が疲れてしまわないように、先生方にもスクールカウンセラー等を活用していただくなど、先生方の支援についても、支援員等の配置と同様に必要性を感じている。

⇒【平山市長】

- 先生が子どもたちに寄り添う姿勢は大変ありがたい。一人ひとりに寄り添うことで厳しい状況にある先生方の支援について、ご意見を承った。

【浅野教育委員】

- 学校訪問の感想だが、教育委員に就任するまで南国市立の各小学校がこれほど特色のある教育を行っていることを知らなかった。「英語教育」「タブレットを用いた教育」など、素晴らしいと感じた。不登校の解決策に「魅力ある学校づくり」とあるが、各学校に異なる魅力があることは、特性を持った子どもたちの選択肢を広げるのではないかと。居住地と異なる学校が選択できるように、南国市の魅力ある教育を生かして自身の居場所を他の学校に求めることができるように、スクールバス等、ハードの仕組みを検討して欲しい。
- コロナを3年経験し、コロナでできなかったことから「やらなくていいこと」も見えてきた。コロナが明け、コロナ以前に戻すのではなく「やらなくてもいいことは、やらないままでいい」という選択が必要である。教員不足、新しい先生も多い今だからこそ、やらなくていいことはやめて、注力すべきことに時間をかけるチャンスなのかなと感じた。

令和5年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【平山市長】

- おっしゃることはよく理解できた。校区外学校への通学については、これまでもご意見をいただいております、公共交通を含めて検討したい。
- 「やらなくていいこと」の見直しについてもぜひ進めていただきたい。

〔議事2〕南国市教育振興基本計画（令和5年度～令和7年度）及び令和5年度の取組について
〔議事3〕GIGAスクールの進捗状況について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【上岡職務代理】

- 保幼小中連携について、保育・幼稚園と小学校がつながっていても、その先の中学校のことはよく分からない。小学校の先生も高校のことは分からない。直近は分かるがその先は分かりにくい状況がある。すぐ近くより遠くを見て子どもたちの教育をどうするか考え、一つ離れたところとの連携も大切である。
- GIGAスクールは始まったばかりで、明治時代からの黒板とノートの教育スタイルがやっと一部タブレットに代わった段階だが、たくさんの可能性があるのも、ぜひ新しい機能を活用して欲しい。先生方は教材づくりなど慣れるのが大変で、忙しさに拍車をかけている。しかし、この状況はいつもまでも続くものではなく、今作っている教材はずっと使える、習熟するほどずっと活用できるので、なんとかこの始まりの時期を乗り越えてほしい。

⇒【平山市長】

- 保幼小中そして高校との連携について、その先の理想や成長を考えるという視点でご意見をいただいた。
- GIGAスクールは、新たな取組によりエネルギーを要するが、ここを超えると導入効果も高くなるということで、機能を活用し可能性を広げていただきたい。

【細川教育委員】

- 3月末まで教育支援センターで不登校対応をさせていただいたので不登校の話をさせていただきたい。不登校の要因は、本人であったり、学校であったり、家庭・社会であったり、またその要因のなかでも学力や友だち、本人の資質などさまざま、不登校を解消する特効薬はなく、一人ひとりの状況に合わせた対応を行っている。不登校になること、休むことは、怠けているのではなく、自身の思いを訴える行動である。
- 不登校の子どもにとって、校内の適用指導教室は安心・安全の心の居場所となる。また「魅力ある学校づくり」は、不登校の子どもが学校に行きやすいだけでなく、そうでない子にとっても行きやすい学級・学校づくりとなるために大切な取組である。
- 教室に入れない子どもにとって、タブレットは大変な強みとなる。教室に行かなくてもオンラインで授業を受けることができ、宿題などの提出物が出せる。タブレットでは、個々の考えが画面で一瞬にして共有・把握できる。タブレットは全体・個別に様々な対応ができるので、不登校対応にも活用し、GIGAスクールを進めてほしい。

⇒【平山市長】

- 不登校対応について「魅力ある学校づくり」「GIGAスクール」の側面からその解決に向けた

令和5年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

らご意見をいただいた。

〔議事4〕南国市いじめ・いじめ疑い含む報告及びいじめ重大事態の報告について ※非公開

その他

【竹内教育長】

- G I G Aスクールにおけるタブレットは令和2～3年度に導入しており、約5年後の令和7～8年度が端末の更新時期となるため、大きな財源措置を必要とする。文部科学省が財源措置に向けて動いているが、財務省からはタブレットが活用されていないとの指摘を受けており、さらに高知県における利用率が低いという調査結果が出ている。一人一台端末の利用について「毎日使う」から「毎日持ち帰る」に見直し、利活用の必要性を数値で訴える方針である。そのために、令和5・6年度の利用状況が大切だと考えている。

⇒【平山市長】

- タブレットは、子どもたちの教育に必要なものであると認識している。令和7年度からの更新費用については、市長会においても国の財源措置を訴える。

3 閉会

以上